

△ △ △

文壇の大家某氏曰く「博覽會で繪を見て來ました、日本畫にも西洋畫にも何れも物足らぬ處はある、不足はあるが、日本畫の

方は最早老成してゐて、不完全なのであ

るから、前途の望はない、西洋畫の方は

まだ年が若く、詰り其れが爲めに不充分

といふのであつて、將來が遠いから大に

希望がある」と。

又曰く「油繪は未だ何となく重い處があ

つて、日本に調和しない、水彩畫はよく

日本の自然が描き現はせてあるし、日本の建築にも適する。

日本畫に飽き足らず、油繪ではシッコイといふ、現時の要求を満たすものは水彩畫であらう、將來繪畫界に重きをなすものも同じく水彩畫であらう」と。



高橋直子筆

~~~~~

黒田清輝氏曰く「繪は他の學問と違ひセオレナカルのものではないから、其教授法にも如何に畫くべきかとの講釋はない、只先生の研究所へ毎日出掛けて、獨習したり他の人の畫くのを見學して自分で畫くのである、すると先生が日に一度宛學生の畫を批評される、批評といつても『君の繪は餘り堅た過る』とか『柔か過る』といはれるのみで、如何にすれば堅くなるか柔かになるやを教へるのではない、夫故學生自身が種々に工風もし研究して畫くので、斯くして畫く間に自然と自得し上達するのである、云は、先生はたゞ繪の方角をつけて呉れるのである、何故先生がこのやうにするかといふに、餘り先生が干渉して手を執つて教ゆるやうなとは、却て學生自身の伎倆が發達しない、又斯く／＼に畫かればならぬと教へては、其畫が先生と同模型となり、本人の特色を發揮する妨となり大家となることが出来な

いからである」  
又曰く「野心と慾氣は美術研究の禁物である、それを悟つて、此に始めて畫が俗氣を離れて美術的のものとなるのである（中學世界）」

\* \* \* \* \*